



# 南小 学校通信

大泉町立南小学校 NO. 17 令和5年12月11日(月)



## 【家庭教育学級】

11月2日(木)、「【ネットやゲームが大好きなみんなへ】～親に怒られない方法、子どもを怒らないですむ方法って～】というテーマで、本島総合病院小児科医師：本島敏乃先生を講師に招き講演会を実施しました。事前に保護者・児童から集めたアンケート結果を基に、南小の実態を踏まえながらわかりやすくお話をしていただきました。「約束決めのポイント」「大人が使い過ぎないようにしよう」等、具体的に取り組めるような内容で、参加した5・6年生や保護者の方も参考になる部分が多かったと思います。当日の資料ご希望の方はお声がけください。



## 【防犯訓練】

11月17日(金)、不審者が1年生の教室へ侵入したという想定で、不審者対応避難訓練を実施しました。訓練の中で、不審者を刺激させないで情報を共有する全校放送の内容や連絡の手段、避難場所の確認等を行いました。当日は雨天のため体育館に避難し、その後、教室で不審者対応指導用ビデオを全児童が視聴しました。

11月22日(水)、大泉警察署から講師を招き、教職員向けの刺股講習会を実施しました。不審者役は県警機動隊に所属していた経験もある方で、私たち教職員が刺股を使い、複数で応戦する実技訓練を行いました。刺股は不審者との距離を確保することや複数で相手の顔に向け、威嚇するのに効果的ですが、逆に刺股を相手につかまれてしまうと攻撃されやすいという短所も指導していただきました。



## 【農林水産大臣賞受賞】

第48回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール」の作文部門において厳正なる審査の結果、6年組のさんの作文作品「馬鍬洗い(まんがらい)」が「作文2部農林水産大臣賞」に選出されました。日本の伝統文化を書いた素晴らしい内容です。裏面に全文を掲載しますのでご一読ください。



## 「馬鋤洗い（まんがらい）」

大泉町立南小学校 六年

毎年五月になるとぼくの周りにはあわただしくなる。父はいつも通り仕事に出かけ、母は毎日朝早く家を出て実家に行ってしまう。でも必ずおにぎりが握ってある。おかずはいらぬ。ぼくはこのおにぎりが大好きだ。甘くてふわふわのおにぎりをほおぼり学校に向かう。いつのまにか忙しい時期がぼくの日課となっていた。

ぼくは小さな頃から母の実家の手伝いをしてる。母の実家はコメ農家だ。その歴史は古く江戸時代から続いている。祖父から叔父が世代交代してから担い手のいない地域の方々から耕作をお願いされて東京ドーム約六個分の規模まで大きくなった。母も四年前から仕事を辞めて手伝っている。

毎年五月から田植えの準備がはじまる。数千枚の苗箱に種まきをして苗床に並べる。単純作業といえば簡単そうに聞こえるが決してそうではない。土、肥料、水の量を絶妙に調整しなければならない。田には麦が刈り取りの時期を迎えており、麦刈りをしながら田植えの準備をする。朝から晩までとにかく忙しい。六月になると叔父は水路に水がきているか確認しながらしろかきをする。あとはひたすら田植えの作業。

毎年七月の初旬に田植えが終わると田植えに関わった人を集めてえん会を行っていた。ここ数年はコロナの影きょうで自しゅくしていたが今年は久しぶりに開催した。えん会の前日叔父がぼくに「明日のまんがらいよろしくな。」と言った。まんがらい。初めて聞いた。辞書で調べたが出てこない。聞き間違えか。ぼくは、ものすごく気になって仕方がなかった。

まんがらいという名のえん会が始まった。今年もたくさんの方が集まった。祖父に聞こうと近づいたが他の人たちとの話が盛り上がり近づけない。目の前にある色とりどりの食事を食べながらタイミングをうかがっていた。楽しい時間はあっという間に過ぎた。ぼくはまだモヤモヤしたままだ。まんがらい。楽しく話している祖父に聞いてみた。「じいちゃん、まんがらいって何？」すると祖父は昔の田植えの話始めた。今では種まき、田植え、稲刈り、もみすりは殆ど機械で出来るようになったが、昔は人の手でやっていた。人の手と言っても馬や牛の力を使っていたことを教えてくれた。田植えの前のしろかきでは馬に馬くわを取り付けてその上に人が乗り別の人が馬を引いてしろをかいたと教えてくれた。田植えが一段落するとその馬くわを洗い清めていたそう。その日は農休みにして集落ごとに集まってえん会をした。まんがらいとは漢字で書くと馬、鋤、洗いと書く。なぞがやっとなげた。

小さい頃から恒例になっていた初夏のえん会は昔からの風習を現代に残した歴史あるものだと初めて知ることができた。来年も田植えを手伝い皆と馬鋤洗いに参加しようと思う。